

大椎っ子田んぼ 2009 草刈り編 (7月9日)

藤 清美 (5年生保護者)

朝からどんよりとした曇り空。雨が降り出すかと心配したのも束の間、しだいに晴れ渡り、今日の草刈りにはもう少し曇っていてもよかったと思うほどでした。

6/1(月)に田植えをしてから約1ヶ月ぶりに子どもたちは、大椎っ子田んぼにやってきました。みんな田植えをした稲の生長や、それ以上に田んぼのまわりや田んぼの中の草の生長の早さに驚いたようです。

子ども達は、赤組と白組に分かれて、一方は自然観察に、もう一方は田んぼの草刈りのお手伝いをしました。前半に草刈りのお手伝いをしてくれた子ども達は、まず、稲の生長状態を観察しました。1本植えをした苗が3本~4本に分結している様子を確認していました。その間、ボランティアの保護者が刈り取った草を、苗の観察を終えた子ども達が所定の場所へ運んでくれました。子ども達の人数の方が多いため、あっという間に草は運ばれていき、私たちボランティアは子ども達に追い立てられて草刈りをするようになってしまいました。前半の子ども達の手早い作業のおかげで、田んぼの周りの草刈りが完了しました。

自然観察を終えた後半の子ども達のお手伝いの時には田んぼの中の草が残ってしまいました。始めは畦から手がとどく草を抜いてくれていましたが、それだけじゃもの足らず、「先生、裸足で田んぼに入ってもいいですか?」と積極的に田んぼの中にはいり、草取りをしてくれました。

皆で植えた稲を倒さないように、慎重に前進していきました。しだいに足場が深くなり、長靴をはいていた子どもたちのくつの中には水が入ってしまいました。子どもたちは、開き直って草抜きに専念して、がんばってくれました。

今日一日、暑い日射しの中、子ども達は汗をながしながら、大椎っ子田んぼの稲の生長に欠かせない草刈りを頑張ってくれました。稲穂が生長し、稲刈りをする時にそのことを思い出してくれたらいいなと思いました。



田んぼの草取り (撮影: 吉野しげみ)

自然観察

クラスごとのグループで田んぼの周りを散策して生きものを観察しました。

朝の下見の時にカルガモの「擬傷(ぎしょう)」という珍しい行動を偶然目撃したので、最初のあいさつの時にみんなにそのことを紹介しました。擬傷とはヒナを守るために親鳥がケガをしたまねをして自分に気を惹かせてヒナから敵を遠ざける行動です。その親子がまだ田んぼにいて、母鳥は大勢で近づいても逃げることなく、時に声を出して威嚇してきま

ました。子どもたちはかわいらしいヒナとそれを必死に守る親の姿に目が釘付けでした。なかなか見られない光景を直に観察できてとてもラッキーです。

田んぼでは田植えの頃とは違う生きものが見られました。セリをむしゃむしゃ食べるキアゲハの幼虫は触ってみるとヒンヤリぷよぷよで気持ちいい! 巨大なハシリグモに最初はビビったけど、かみつかないと聞き勇気をふるって手に乗せてみると、おっ、結構かわいいじゃん! 水路をじゃぶじゃぶさらった網を持ち上げてよ~く見ると、やったぜ! ドジョウをゲット! いろいろな発見にとともにぎやかな自然観察でした。

高山 邦明 (YPPスタッフ)



カルガモの擬傷 (撮影: 高山邦明)



田んぼのまわりで観察 (撮影: 吉野しげみ)

田植え（6月1日）の子どもたちの感想より

<生まれて初めの田んぼ>

(K.T)

苗を植える前に、まず、大椎小田んぼの隣の田んぼでザリガニを取る作業からしました。私はザリガニが苦手だけれど、おいしいお米をつくるためにがんばろうと思っていました。ところが、先に田んぼに入ろうとした子の足がドロにはまってしまっているのを見て、田んぼに入るのをためらってしまいました。

しかし、まわりの子は、そんなこと気にせず、どんどん田んぼに足を踏み入れていたのです。私もあわてて、足を田んぼに入れたとたん、あまりの気持ち悪さに足をひっこめてしまいました。足の指やつめの中にドロがくっついてしまったからです。

みんなは、やる気マンマンで、どんどんと田んぼに入っていくザリガニ探しに夢中になっていました。みんなは勇気があるなど、私も挑戦しましたが、やっぱり入れず、もう、田植えが嫌いになってきました。しかし、お米作りをしている農家の人たちは、毎回、田んぼの中に足を踏み入れているんだと考えたら、なんとか、足をいれようと思うことができました。

それでも、もし、ザリガニを足で踏んでしまったらどうしようと迷っていると、近くにいたボランティアの人が手をかしてくれて、ようやく、田んぼに入ることができ、自然と足が動いて田んぼを歩くことができました。

足の指やつめにはいったドロも気持ちがよいくらいになりました。だけど、ザリガニはつかまえることができませんでした。

すると、私たちの田植えの順番になりました。もう、田んぼのドロになれたので、すぐに田んぼに入ることができました。けれども、一歩あるたびに、足がぬけなくなり、歩くのは思ったより大変でした。まず、まとめてある苗の束から根を切らないように1本ずつ分けて、20センチ間隔で、植えていきました。私は、土を掘って苗を植えて土をかぶせるのだと思っていたので、苗をドロの中におしこんでいくだけの作業にびっくりしました。

田植えを終えたあと、田植えを教えてくれた金谷さんが「ちゃんと、苗の列がそろっているから、上から見るときれいに見えるよ」とほめてくださったので、うれしかったです。

自然観察では、普段さわったりしない生き物たちにふれることができよかったです。特にホトケドジョウは、心に残りました。そんなに大きくはないけれど、ぬるぬるしていて、とてもすばしっこいからです。そのホトケドジョウが絶滅しかかっていると聞き、大切にしないといけないなと思いました。

今回の田植えと自然観察は初めての体験でわからないこともたくさんあったけど、とても貴重な体験だったと思います。



田んぼで生きものさがし（6月1日 撮影：吉野しげみ）

谷津田いきもの図鑑 No.32

セリ

セリという春の七草としてよく知られています。YPP 下大和田で毎年3月に開かれる「野草を食べる会」でもセリは定番の野草で、おひたしや天ぷらにしたり、汁物やおかゆに入れたりして食べると独特の香りとにがみに春を実感します。でも、意外と知られていないのはセリが夏に花をつけること。7~8月、生長した稲の間や水路のあちこちで白い花を咲かせているのを見かけます。花はとても小さくて直径2~3ミリほど。それがたくさん集まって傘のような形をしています。暑い夏の盛りに目立たないのですが、涼しさを誘う清楚な花をぜひご覧下さい。キアゲハの幼虫もセリが大好きです。

セリという名前は競り合って生えることに由来するといわれているようです。一か所から水中をはうようにあち



セリを食べるキアゲハの幼虫（小山にて、2009/7/14）



セリの花（小山にて、2009/8/2）

こちに枝を伸ばして繁茂し、時に田んぼのやっかいな雑草となってしまうこともあります。セリは「水芹（すいきん）」と呼ばれる生薬としても知られていて、摘んだセリを乾燥させて作り、煎じて飲むと食欲増進や解熱の効果があり、神経痛やリウマチ、黄疸に効くようです。

(高山邦明)



里山たんけんレポート

第 114 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2009 年 7 月 5 日(日) くもり

夏らしい暑さになりました。参加者は 6 名と後から二つの親子連れの子 13 名でした。谷津田は昆虫たちが活発でした。カワトンボ、オニヤンマ、ノシメトンボ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、コオニヤンマといったトンボ類。コオニヤンマは網で捕獲したため確認できました。コガネグモは大きな巣を作っていました。森の中ではタマムシを数匹見ることができました。手に取り参加者全員で観察。その美しさを堪能しました。産卵のために集まっていたようです。カブトムシ、ノコギリクワガタも見ることができました。

観察会のあと、田んぼの畦道の草刈りをしました。暑い中、気持ちよい汗をかくことができました。

(参加者 大人 9 名、子供 4 名 ; 報告 : 平沼勝男)

第 99 回 下大和田 YPP「田んぼの生きものと遊ぼう & 田の草取り」

2009 年 7 月 19 日(日) 晴れ

ミズアオイ科コナギが特に古代米田んぼを中心にはびこっていましたので、初めての家族連れの方々も一緒に草取りをしました。無造作に抜くと根を残すので苦労しました。コナギは東南アジア原産の古い時代の帰化植物で、稲作の渡来に伴って渡来した、代表的な水田雑草の 1 つで水田の水路、放棄水田、部分減反した水田などに生育して、群落を形成しています。

8 月からかわいい青い花を咲かせます。この無農薬雑草は厚い葉の空揚げがおいしそうですので、次回は持ち帰って調理しましょう。草取りですみかを追われた蜘蛛が水面を移動し、ザリガニがはさみを振り上げているので、そこにいたのかと思いつきの一歩をずらしたり、生き物を観察しながら草取りを楽しみました。麦わら帽子が風で飛ぶくらいでしたので、汗も引きが早かった。

この時期は稲と同じ大きさで葉も同じだが、葉の広がり方が広く、根元が赤褐色の雑草は一気には抜けないので深い根を足先でつぶしながら、外していき、左右に回しながら引き抜きます。引いた後、これで隣の稲に大きく育てよと声をかけました。

昼ごはんは吹きあがる涼しい風の中、おいしかった。飛んできた玉虫の色変化に子供たちも感心しました。その後、田んぼの作業の今後について 40 分くらい話しあいました。昼からは有志で古代米の田んぼの草取りを 2 時間近く実施しました。やつだ大福帳にこの日 7 点押してもらい、24 点になったご家族の皆様も毎回 Y P P への参加どうもありがとうございます。

(参加者 大人 18 名、小中高生 5 名、幼児 4 名 報告 : 南川忠男)



青々と成長したコシヒカリ田んぼでの草取り

第 47 回 小山町 YPP「田んぼの草取り」

2009 年 7 月 11 日(土) くもり

人にとってうっとうしい梅雨の季節ですが、田んぼの稲にとってはたくさんお米をつけるためにぐんぐん生長する大切な時です。それに負けじと稲株の間で雑草たちもすごい勢いで背を伸ばしています。

ウリカワヤオモダカはさほど気にならないのですが、困るのは何と言ってもコナギ。昔からお百姓さんたちを悩ませてきたコナギが小山の田んぼにびっしりと生え始めています。それとイグサの仲間も場所によっては稲と同じくらいの背丈に生育しています。田んぼの草取りのせい、集まった人は少なかったのですが、お話をしながらにぎやかに雑草と格闘です。芽が出たばかりのコナギやすぐ抜けるものの数がものすごく田んぼの表面を全部手でぬぐわないといけなのが大変。イグサは根をしっかりと張っていて抜くのが大変。だんだんと指の力が入らなくなるほどでした。

予定の 2/3 ほどしか済ませることはできませんでしたが、田んぼがとてもしっかりしました。

最後に子どもたちと自然観察をしました。子どもたちの注目はトンボ採り。田んぼを忙しく飛び回るシオカラトンボを虫採り網で簡単に捕まえてしまうのはお見事。でも少し高いところを飛ぶコシアキトンボはなかなか捕まりません。網の届く高さの少し上をまるで人と遊んでいるように飛んでいて結局誰も捕まえることができませんでした。さらに上空ではオニヤンマが 3 匹、悠々と飛んでいました。羽化して間もないのでまだ縄張りを保っていないようです。最後に大きなアカガエルとヤマカガシをじっくり観察してみんな満足そうでした。

(参加者 大人 5 名、高校生 1 名、小学生 4 名 ; 報告 : 高山邦明)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 7月9日 ウスバキトンボが飛ぶ(高山)
- 7月14日 YPP 田んぼでカワセミの姿を見る(齊藤)。
- 7月26日 地元の方の田んぼではコシヒカリが花盛り。YPP 田んぼも遅れて出穂(高山)。

下大和田

- 7月10日 イベント広場奥の川縁にたくさんのヘイケボタルが幻想的な光を発していた。ちょうど発生 of 盛りだったのか下大和田では一番の見事さだった。クヌギ、ヤナギの樹液にカブトムシ、コクワガタ、ノコギリクワガタが来ていた(網代)。
- 7月19日・30日 クヌギの樹液にオオムラサキが来ていた(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPP のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第100回 下大和田 YPP「かかしづくり」

時間に注意!

今年は天候不順でお米の生育が心配です。無事収穫できますよう祈りをこめて、田んぼの守り神、かかしを作ります。今回は別のイベントと重なるため、時間帯がいつもと違うことをご了承下さい。

日時: 2009年8月22日(土) **12:45~15:00** *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に 10:00 (JR 千葉駅 10 番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで 45 分<千葉駅発 8:53、9:08、9:23 など> 料金は 520 円)

持ち物: もしあればかかしに着せる古着、帽子、飲み物(暑いのでたっぷり!)、敷物など。

参加費: 300 円(資料代等)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第48回 小山町 YPP「かかしづくりと自然観察」

恒例のかかしづくりです。生きものでにぎわう田んぼに今年も無事収穫がありますようお願いを込めてかかしを作りますよ。

日時: 2009年8月29日(土) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場
(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: もしあればかかしに着せる古着、長靴、軍手、帽子、飲み物(暑いのでたっぷり!)、敷物など

参加費: 100 円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター

第116回 下大和田 9月の谷津田観察会とごみ拾い

バッタやカマキリも大人になり、秋の野草、水田雑草などが咲きだしました。モズの高鳴きも聞ける頃です。初秋の谷津田を巡ります。午後まで時間の取れる方は田んぼの草取り作業にご協力いただければと思います。

日時: 2009年9月6日(日) 観察 10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300 円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

編集後記 6月前半の低温、早く明けた梅雨が逆戻り、なかなか夏らしい強い陽ざし暑さが訪れず、今年は天候不順が気になります。稲穂に付くカメムシをいつになくよく見かけるな、と思っていたら、今年は千葉県全域で大量発生していて、「病虫害発生予報注意報」が出ているそうです。その発生量は例年の6.6倍とか。しろうと米づくりでも、無事収穫を迎えるまで落ち着かない日々が続くそうです。

(高山邦明)